

SSKU



つばさの会通信

第 220 号

2026 年 7 月

◆2026 年度横須賀つばさの会定期総会報告

日 時：2026 年 6 月 11 日（木）

場 所：横須賀市保健所 3 階第一研修室

第一部：総会 14：00～14：50 分

司会；石井監事により議長に三冨清弘理事、書記に佐藤弘子顧問が選出されました。
会員出席者 22 名、委任状提出者 24 名、合計 46 名となり会員総数 65 名の過半数を占めたので、
総会は成立しました。

最初に下江理事長の挨拶の後、下記の議案について説明。

- | | |
|-----------------------|------------------------|
| ① 2025 年度つばさの会活動報告 | ⑤2026 年度つばさの会行事予定（案） |
| ② 2025 年度つばさの会活動計算書 | ⑥2026 年度つばさの会活動予算書（案） |
| ③ 2025 年度つばさの会監査報告 | ⑦定款変更（案） |
| ④ 2026 年度つばさの会活動計画(案) | ⑧2026 年度つばさの会役員及び担当（案） |

以上、すべての議案は満場一致をもって承認され、成立しました。

【主な変更事項】

定款変更（定款第 2 条）・・・主たる事務所の所在地を、業務運営の都合により下記の通り変更。

変更前：神奈川県横須賀市船越町 1 丁目 50 番地 就労継続支援 B 型事業所つばさ第二

変更後：神奈川県横須賀市三春町 2-4 EMIAS203 号 就労継続支援 B 型事業所つばさ

役員 松原 理恵（B 型事業所つばさ管理者） 理事 → 副理事長

新役員 関 聖子（B 型事業所つばさ 主任） 理事

佐藤 弘子（B 型事業所つばさ第二 サービス管理責任者） 顧問

尚詳しくは、総会不参加の方には、後日、議案書を送付いたしますので、ご覧下さい。

本年も皆様とご一緒に「支え合い」「学びあい」「働きかけ」を 3 本柱として活動してまいります。



第二部 記念講演 14:45～16:15

テーマ： 「地域移行・地域定着支援事業」「入院者訪問支援事業について」

講師： 地域生活サポートセンターとらいむ

施設長代理/精神保健福祉士・社会福祉士 丸 友美氏

ピアサポーター：中島 大昌さん、関根 彩織さんによる体験発表。

〔講演概要〕

1. とらいむと地域移行・地域定着支援事業について

■ とらいむとは

鎌倉市由比ガ浜に拠点を置く福祉事業所。精神疾患のある方の居場所となる地域活動センター計画相談支援、地域移行・地域定着支援事業及び入院者訪問支援事業を運営しています。

■ 地域移行・地域定着支援

精神病院に長期入院されている方が、住み慣れた地域で生活を取り戻せるよう、病院・関係機関と連携しながら退院支援を行う事業。

主な担当エリア 鎌倉・逗子・葉山・三浦・横須賀

担当病院 久里浜医療センター・湘南病院・福井記念病院・横須賀共済会病院

■ 入院者訪問支援事業

精神科病院に入院中で、面会交流や家族・知人との交流が途絶えがちな方にピアサポーターと職員が訪問し、当事者の視点からお話を聞いたりアドバイスをしたりすることで、地域生活への不安を軽減する支援を行っています。

■ 活動内容

- ・地域で生活する当事者一人ひとりの経験を活かし、精神科病院にその経験を届けます。
- ・「ピアサポーター」を要請・派遣し、病院訪問活動を行っています。
- ・グループワークや体験談の発表を通して、退院や地域生活への関心を高めていけるような働きかけを続けています。

2. ピアサポーター中島大昌さん、関根彩織さんによる体験発表

～中島大昌さん～



発病のきっかけ

自動車メーカーでの設計職だった中島さんは、月60時間を超える残業や連続夜勤が半月を超えるなどの激務が続き、2週間の不眠、ストレス性胃腸炎、過呼吸が重なりました。やがて「聞こえるはずのない悪口」「毒ガス攻撃の妄想」「宇宙戦争の幻覚」などの症状が表れ精神科病院へ入院することとなりました。

回復のプロセス

医療保護入院を経験した際は保護室の生活に追い詰められ、その時に父親が「自分が責任を持つ」と主治医に伝え退院が実現。自宅でも毎日天井を見つめる日々が続きましたが、学生時代の友人の訪問が回復の糸口になりました。その後ディケアに通い始め、作業療法士、仲間との出会いによってリカバリーが進み、ピアサポーターを志すようになりました。

中島さんからのメッセージ

「30代、夢は叶えるものと信じていた。40代半ばになり夢とは逃げないもの、だから追い続ければいいと思えるようになった」



～関根彩織さん～

病室で父親が「会いたいな」と一言残し目の前で旅立ちました。生活保護受給中であったため、病院から提携葬儀社を紹介してもらい家族葬を選択。お骨・香典返し・分骨など当日から翌日中に多くの決定が必要でした。

現在の生活と支援体制

就労継続支援B型事業所に通所しながら、ホームヘルパー（週1・買い物・調理）、社協安心センター（通帳管理・生活費計算）、精神科通院（薬の量や飲み方を医師と調整）を組み合わせ生活を持っています。

ピア活動として伝えていること

民生委員・ボランティア向け講演会では「精神疾患は怖くない、薬を飲みながら普通に暮らしている」「できないことは他人の手を借りれば生活できる」と伝え、偏見に取り組んでいます

親亡き後、準備しておくの良いと思ったこと

- ・他人の手を借りることへの慣れ：ヘルパー等の早期利用で「人が入る」ことに慣れておく。
- ・デジタル遺品の整理：暗証番号、アプリ解約方法をノートにまとめておく。
- ・エンディングノート：葬儀の規模、連絡先、骨の扱い、葬儀代の保管場所を具体的に記載。

関根彩織さんは自身の経験から「いざというときに困らないよう、普段から家族以外の手（ホームヘルパー等）を借りて生活することに慣れておくこと」を勧められていました。また「専門家や支援者はより楽に、より素敵に生きるための知恵を授けてくれるトレーナーのような存在なので遠慮なく頼りましょう。」とおっしゃっていたのが印象的でした。

第二部では、地域生活サポートセンターとらいむの丸氏より、事業の概要や具体的な支援の取り組みについて丁寧なご説明をいただきました。また、ピアサポーターとして活動されている中島さん、関根さんからは、同じ境遇の方々と繋がることの温かさ、そして自分自身を大切にしながら歩いていくことの尊さを改めて教えて頂きました。（まとめ 関 聖子）



訃報 じんかれん理事長・つばさの会副理事長 小松守也様 逝去について

かねてより病氣療養中のところ令和8年6月5日 享年83歳で永眠しました。

謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

NP0 法人つばさの会 役員一同

このたび、貴会理事長 小松守也様のご逝去の報に接し、深い悲しみとともに謹んでお悔やみ申し上げます。

小松様には長年にわたり精神障害者とその家族福祉の向上のためご尽力いただき、NP0 法人 じんかれん の発展はもとより、全国の家族会活動にも多大なるご貢献を賜りました。

ここに故人のご功績に深く敬意を表しますとともに、ご生前のご厚情に心より感謝申し上げます。

ご遺族ならびに NP0 法人 じんかれん の皆様のご悲嘆はいかばかりかと拝察いたします。

どうかご自愛くださいますようお願い申し上げます。

故人のご冥福を心よりお祈り申し上げます。

公益社団法人全国精神保健福祉会連合会（みんなねっと）理事長 岡田久実子

小松様の活躍の一旦として「日本家族看護学会第31回学術集会「家族会企画」において講演された際の内容を奥様、息子さんの了解を得て掲載いたします。

日時： 2024年9月15日

会場： 鎌倉芸術館

セッション名：家族会企画 「今、語り合おう！専門職と家族のコラボレーション」

演者：岡 知史先生（上智大学 総合人間科学部）

小松 守也様（特定非営利活動法人 横須賀つばさの会）

矢村 美穂子様（日本ALS協会 横浜支部）

伊藤 麻衣子様（小児がん患者ネットワーク 和楽）



テーマ：精神障害を持つ子供に、長年向き合った親として思うこと。

横須賀つばさの会 小松守也

こころの病気は、大きく分けて統合失調症、うつ病、そして発達障害の三つ（認知症は除く）です。我が息子は、現在50才で私は81才です。彼は18歳の頃、統合失調症を発症し、苦しみながら、32年間、抗精神病薬を飲み続けています。この病気の特徴は陽性症状（急性期の悪い状態時）として、妄想、幻覚、思考障害を経験し、次に陰性症状（消耗期と回復期で、少しずつ良く変わっていく時期）として、感情鈍麻、思想の貧困、意識の欠如、自閉等を永く持ち続けるものです。この病気は家族と同居している子供（親のケースもある）が大半で20代後半に75%が発症しています。しかしこの病気は殆んどの人が経験とか知識がない家族に突如訪れます。親としても、家族会や読書等で、先人の経験と知識を得ながら30年間、歩んで来ています。心の病気の回復には、自然治癒力（本人が良くなりたいと願う力）、手術、生活指導（SST）、リハビリテーション等が必要と言われています。そして規則正しい生活、睡眠、食事、運動、人とのコミュニケーションが重要とも言われています。

実際の我が息子の回復ぶりは、山あり谷ありの毎日です。10代～20代の半ばまでは、約7人の精神科医を転々として訪問し続け、やっと8人目の現主治医に会え、息子も両親も安心して頼れる人に辿り着きました。それでも急性期の彼は、怒りっぽくて、自動車騒音や、生活騒音に過敏で、アルバイト先を次々と変えて、雇用先への恨みを絶え間なくこぼしながらも挑戦する生活を続けていましたが遂には、30代の初めには約2年間自宅に引きこもってしまいました。

統合失調症は、一人一人がその症状の現れ方が別々で、対応の仕方が個別的なものだと、最近

家族会歴 15 年の中で、強く思っています。今の主治医は、「息子と長く交際していると、成長し、
変わって来ている事に気づく。普段の生活の中で他者へのやさしさ、おだやかさに気づく事が
多いと思うが、ご両親はどうか」と聞かれています。

日常生活では、家族だからこそ言わざるを得ないこと、例えば、親が 80 才、彼が 50 才、親亡き
後を将来的に話し合う必要を訴えて来てはいますが、彼は「不安感が増すばかりだから、この話は
別にしよう」と、話に乗って来ません。対立的要因として課題を提供するのではなく、本人の気持
ちをどうひっぱりだすべきか、やりたくても、やれなかった青春時代の無念を抱えながら、生きて
いる彼に、「じっと待つこと」「自分から言い出すことを待つことにしよう」と思う今日この頃です。

以上

略歴 【学歴】 1965 年大学卒業

 【職歴】 1965 年一般企業入社、2005 年 同企業退社

 【家族会歴】 2009 年 NPO 法人 横須賀つばさの会入会、現在に至る。

謹啓	この度 亡夫 小松守也の召天に際し多くの方々に温かい、 お祈り お慰め ご丁重なる献花を賜りありがとうございます おかげさまで葬儀を無事執り行う事が出来ましたことを 心より感謝申し上げます なお皆様から頂きました御芳志は個人の希望により 左記の福祉団体にご寄付させていただきました 本来ならば お会いしてご挨拶申し上げるべきところ 書面を持ちましてお礼のご挨拶とさせていただきます。	謹白
令和八年七月	小松 恵美子	
記		
一、 神奈川県精神障害保健福祉家族連合会		
NPO 法人 じんかれん		
一、 横須賀市精神障害者家族会		
NPO 法人 横須賀つばさの会		
一、 障害児者余暇活動の会		
「モモの会」		
以上		

このご寄付は、ご主人である故小松守也様のご遺志により葬儀で皆様から頂戴したご芳志を
ご寄付くださったものです。 掲載については、奥様の了解を得ております。



津久井やまゆり園事件から7月で10年。社会は差別と偏見にあふれる。「共生社会」を実現するために、私たちに何ができるか。実践する人たちの言葉と行動から一緒に考えたい。

2026年6月20 神奈川新聞より

「差別ない社会実現を」川崎市長選出馬し訴え 清掃員 関口実さん

清掃員の関口実さん（68）＝川崎市多摩区＝は昨年10月の市長選に出馬し、「差別と戦争のない平和な世の中を実現しよう」と訴えた。自閉スペクトラム症（ASD）を理由に幼少期はいじめられ、社会に出ても低賃金で働く。自身の経験を踏まえ、「生活に息苦しさをを感じる人の声に耳を傾けることこそ、共生への道になる」

中高生の時、同級生に繰り返し暴力を振るわれました。鉛筆を刺された右手には、今もその痕が残っています。ASDが原因かもしれませんが、人と話す時に下を向く癖がついてしまいました。大学中退以降、低賃金で働き続けています。月の給与は20年ほど前に通っていた共同作業所で1万円、今の清掃員は10万円ほど。障害者の所得は1人で暮らしていけないほど低く、日々の暮らしの中で障害のない人との差を痛感しています。

差別にさらされているのは私だけではありません。ヘイトスピーチに恐怖を抱き、平穏な生活すらままならない外国籍市民がいます。見て見ぬふりをして手を差し伸べないことは、差別に加担していることと同じです。こんな状況を許していいのでしょうか。

だから市長選に立候補しました。「差別をなくしたい」という気持ちを1人でも多くの市民と共有したかったからです。結果は残念でしたが、4670人が投票してくれました。少なからず自分の意見が広がったと思います。

差別は人を人とだと思わなくなる。その先に待つのは戦争です。戦争は誰のためにもなりません。今も、反戦や改憲反対を訴えるデモに足を運んでいます。世の中から少しでも差別がなくなってほしい。そう願い、声を上げ続けます。

障害者雇用率 2.7%に

従業員の一定割合以上の障害者を雇うことを義務付ける「法定雇用率」が2026.7・1より2.5%から2.7%に引き上げられた。更なる就労促進が目的だ。だが引き上げ前の基準でも達成している企業は半数に満たない。受け入れ環境の整備に課題が残っている。

これまで従業員40人以上であれば1人以上の障害者を雇う必要があった。引き上げ後は37.5人以上（短時間労働者は原則0.5人で計算）につき1人となり、対象となる雇用の幅が広がる。従業員100人超の企業が法定雇用率を達成できない場合、不足1人につき月5万円の納付金を支払わなければならない。

《家族交流会》

担当 木原啓子 080-3383-2214

7月22日(水) 本町コミュニティセンター(総合福祉会館6階)第一会議室 13:00～15:00

8月は夏休みとさせていただきます。

9月24日(木) 本町コミュニティセンター(総合福祉会館6階)第一会議室 13:00～15:00

9月24日の家族交流会は23日(水)が祝日の為24日(木)に変更しましたので、お間違いなきようお願いいたします。

5月27日11名、6月25日10名の参加者でした。それぞれの家族の近況を語り合い有意義な時を過ごせました。予約なしで参加していただけますので時間内にお気軽にお立ち寄りください

発行人/ 特定非営利活動法人

障害者団体定期刊行物協会

東京都世田谷区祖師谷 3-1-17

ヴェルドウーラ祖師谷 102号室

TEL 03-6277-9611 FAX 03-6277-9555

編集人/ NPO法人横須賀つばさの会

〒237-0076 神奈川県横須賀市船越町 1-50

TEL 046-861-2373

定価 50円（会員は会費の中に含まれます）